



馬耳東風

金環日食に歓声をあげ、月食、さらに金星の太陽面通過と、天空を仰いで全国が沸いた年である。ローランド・エメリッヒ監督の話題作、スペクタクル映画「2012」を思い出す。世界中で大きな驚きと関心呼び起こし、興行成績も抜群だった。突発した天変地異に驚愕し必死に生き残ろうと逃げ惑う人間の姿と心理をよく捉えていて、一瞬の瞬きも許さない憎いほどの切迫した恐怖感をあおりつけてくれた。古代マヤ暦の謎をもとに、いかにもアメリカ映画らしい見事なフィクションである。マヤ文明はロマン溢れるメソアメリカ文明である。今に引き継がれるトウモロコシの焼畑農耕を基盤に神権政治を確立し、金属を持たない巨石建造物と天文・暦法・象形文字を特徴とする文明である。巨大石造の神秘に溢れるティカル神殿は世界から多くの観光客を集めている。マヤ神話の世界観は破滅と再生の周期を持つとされる。文明を象徴する長期暦区切りの2012年12月21日が間もなくやって来る。その日は、いて座-太陽-地球がほぼ一直線に並び、日本の暦では二十四節気の一つである「冬至」に当たり、東京の日の出が6時44分、日没が16時35分で太陽の南中高度が最も低く、昼間が最も短いとされる。かつてテレビ局の取材でマヤ暦の区切りは、終末ではなく元に戻るのだと現地のマヤ・シャーマンが当たり前に答えていた。しかしながら、秀でた古代文明の終末思想やあの強烈な映画シーンから、最近発表された南海トラフの巨大地震で、最悪32万人の死亡想定を思

い浮かべてしまう。日本の歳時記どおりに冬至の柚子湯にゆったり浸かり、余裕のままでいたいと誰もが念じ日本の暦どおりだと信じている。危機管理の根本は、最悪を覚悟して最善を尽くすことだ。

暦は時の流れを体系付けた身近な存在であり、天象や生活に必要な曜日や行事、あるいは干支などを取り込んだ生活暦で日常生活の必需品である。暦を集約した七曜表すなわちカレンダーは、国民の祝日はもとより大安・友引などの六曜や干支、主な節気や旧暦も記し日めくり式の分厚いものから一年一枚ものも多い。年頭に新しく飾られ、新しい潤いのある生活感を与えてくれる。写真や絵画あるいは書道の芸術作品で手作りのものまで立派な装飾必需品である。

さて、身近な日本の暦を調べてみると、わが国最初の暦は、日本書紀によれば602年（推古10年）百濟僧観勒が渡来し伝えたという。その後、明治5年12月3日を太陽暦の明治6年1月1日と替えるまで、太陰暦すなわち旧暦が用いられてきた。この時、財政難の政府は役人に支払う給与一ヶ月分を節約できたというエピソードつきである。社寺本暦や農事暦だと年齢早見表から方位吉凶運勢まで、さらに民俗や潮汐はもとより農事までついている。節気と七十二候こそ日本風土の庶民の生き方に根付いた暦である。現在の年号で西暦と和暦の併記は日本が国際化した産物であるが、主体暦という異次元の暦を持つ国もあり、体制や文化の違いが明らかだ。

(柏)